平成　20　年度　　事務事業評価シート(平成　19　年度実施事業)

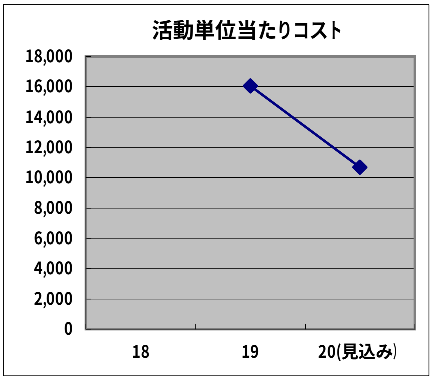
整理番号	市人06

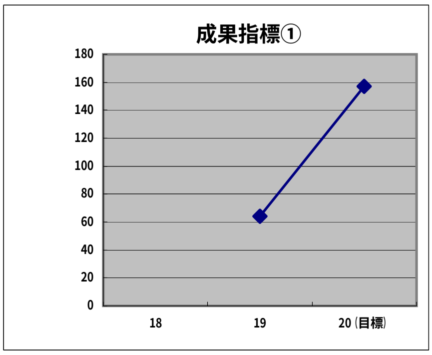
事務事業名	男女共同参画推進プラン推進状況評価事業			
総合基本計画 まちづくりの目標(章)	4	魅力ある地域社会を拓く活力あるまち		
総合基本計画 施策(節)	2	男女共同参画		
総合基本計画 施策の方向	(1)	男女平等実現のための意識改革		
関連する計画等	羽曳野市男女共同参画推進プラン			

予算科目		
会計	1	一　般　会　計
款	3	民生費
項	1	社会福祉費
目	7	人権施策費
事業	4	男女共同参画
作成部署	市民人権部人権推進課	
連絡先	072 - 958 - 1111　　内線　1057	

事業の目的 対象（誰を・何を）	市民・事業所・市民団体
事業の目的 意図（どういう状態にしたいのか）	羽曳野市男女共同参画推進プランの推進状況の確認･評価を行い、男女共同参画社会の実現を目指す。
事業の内容	羽曳野市男女共同参画推進プラン（平成19年3月策定／期間：平成19年～28年度）の中で位置づけている「施策の内容・方向性」の取組みについて、定期的な市民の意識調査等を実施し、プランの推進状況の確認・評価を行う。
根拠法令等	男女共同参画社会基本法・羽曳野市男女共同参画推進本部設置要綱
事業開始時期	□ 昭和　☑ 平成　19 年　　月開始　□ 明確にはわからない　終了年度　平成　　年度
事業開始時からの状況変化	
市民や議会の要望	
実施手法	☑ 直営　□ 一部委託　□ 全部委託　□ 補助金・助成金　□ その他(　　　)
委託先	□ 外部団体委託　名称　□ 民間委託　／ 委託内容

区　分		18年度（実績）	19年度（実績）	20年度（見込み）
事業費【1】	(千円)	0	0	0
人件費【2】	(千円)	0	2,520	1,680
職員数 正規職員		0.00 人	0.30 人	0.20 人
職員数 再任用職員		0.00 人	0.00 人	0.00 人
職員数 嘱託職員		0.00 人	0.00 人	0.00 人
職員数 臨時職員		0.00 人	0.00 人	0.00 人
超過勤務(参考)	(時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費（【1】＋【2】）【A】	(千円)	0	2,520	1,680
財源内訳 国費	(千円)			
財源内訳 府費	(千円)			
財源内訳 市債	(千円)			
財源内訳 その他（手数料・使用料等）	(千円)			
財源内訳 一般財源	(千円)	0	2,520	1,680
活動指標(事業の活動実績)【B】	単位	18年度	19年度	20年度(目標)
① 施策の内容･方向性の数	事業		157	157
②				
③				
活動単位当たりコスト(【A】／【B】①)		円	16,051 円	10,701 円
市民１人当たりコスト(【A】／人口)		0 円	21 円	14 円





成果指標（事業目的の達成度を測る指標）	指標名	指標設定の考え方		平成18年度	平成19年度		平成20年度
①	達成した累積事業数（事業）(式)	取組むべき事業に対し、実際に取組んだ事業の数	目標		157	達成率(%) 40.8%	157
			実績		64		
②	(式)		目標			達成率(%)	
			実績				

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	男女共同参画推進プランの中で具体的に取り組んでいる事業について進捗状況を調査・評価する。
	○		○	○	○	○		○			

	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
分析・評価	妥当性	市民ニーズが高い	☑	☐	☐	男女共同参画社会づくりのため、同プランは羽曳野市の指針となるべきものであり、その中で具体的な取組事業について進捗状況を調査し、評価することは必要不可欠である。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☑	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☑	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☑	☐	☐	
		国・府の事業と重複していない	☐	☐	☑	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☑	☐	☐	
		緊急性が認められる	☐	☐	☑	
	効率性	単位コストが適切である（経年、他市比較など）	☑	☐	☐	市内部の情報共有システムを利用し、効率的に実施状況の確認・評価を行っているが、今後は外部評価の導入を検討する必要がある。
		受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☑	
		人員を削減する余地がない	☑	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☑	☐	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☑	☐	☐	
		市の他事業と重複していない	☑	☐	☐	
		民間活力（民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど）の活用について検討の余地がない	☐	☑	☐	
	有効性	上位の施策（目的）が明確である	☑	☐	☐	プランの推進状況をチェックすることは羽曳野市における男女共同参画の進捗状況を把握することであり、有効性がある。
		上位の施策（目的）への貢献度が高い事業である	☑	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☐	☑	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☐	☐	☑	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☑	☐	現状では、市内部の評価にとどまっている。
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☐	☑	☐	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☐	☑	☐	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☐	☑	☐	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☐	☐	☑	初年度の達成状況としては、概ね評価できる。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☐	☑	
		成果指標は前年度より向上している	☐	☐	☑	

担当部局評価	
	総合評価
	☐ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☑ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了
	評価の理由
	現状では、市内部による推進状況の把握・評価にとどまっているため、第三者からの視点を取り入れた評価が必要である。
	今後に向けて（取組方針、具体的な改善改革案など）
	市内部だけの評価にとどまらず、透明性及び客観性の確保のために、男女共同参画推進懇話会等による調査・評価を図る。